



廿日市市環境産業部観光課  
高木 智子 主任主事

世界遺産条約は1972年にユネスコ総会で採択された条約です。条約の目的は「世界中にある価値の高い文化遺産や自然遺産は人類共有の財産である」という認識のもと、それらが損壊や滅失の危機にあるときには、各国が協力して保存しようというものです。厳島神社と宮島の一部は1996年12月7日に世界遺産に登録されました。今年20周年を迎え、国宝に指定され普段はなかなか公開できない宝物などの展示を通して「大事に保存されてきた貴重な財産を宮島で見ることが出来る」という素晴らしさを感じる機会にしたいと思います。

とが目で見えて分かります。平成盛や毛利元就など、教科書にも出てくる歴史上の人物たちが信仰した地が市内にあるということ誇りに思ってもえたらうれしいです。市では、今生きている私たちも歴史を刻む者であると認識し、島内の町並みや生活様式を保存していく取り組みを進めています。宮島が存続していくためにいろいろと工夫を凝らして、産業を考えたり、伝統工芸品を守ったりしてきた人たちがいる。観光客が途絶えないのは、するように引き継がれてきたものに価値を見出し、評価されているからだと思います。たくさんさんの人の知恵と努力があったことを忘れず、これからも宮島の魅力を発信していきたいです。

#### — 厳島神社の世界遺産価値 —

##### (1) 創造的な才能が生んだ傑作

12世紀の造営を基とし、寝殿造様式を取り入れた社殿群は、優れた建築景観です。また、海上に建ち、背景の山々と一体となった景観は他に例が無く、平清盛の卓越した発想や業績を示す財産です。

##### (2) 人類の文化的交流の形跡を示すもの

日本人の美意識の一基準となった作品で、現存する社殿群でも唯一無二のもので、日本人の精神文化を理解する上で重要な資産です。

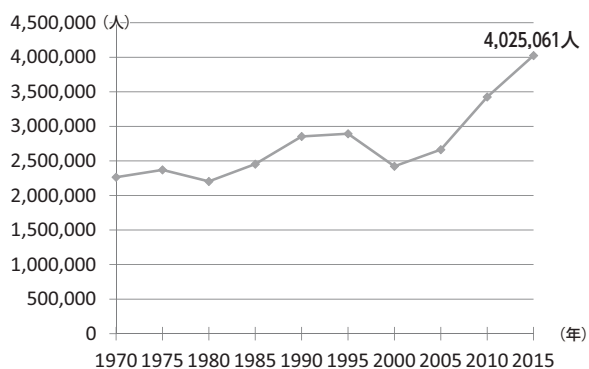
##### (3) 歴史上の有意義な時代を示す優れた建築物群、景観

造営当時の様式をよく残し、度重なる再建にもかかわらず、平安時代創建当初の建造物の面影を現在に伝える希少なものです。

##### (4) 伝統・思想・信仰などと密接に関係するもの

日本の風土に根差した宗教である神道の施設であり、日本の宗教的空間の特質を理解する上で重要な根拠となるものです。

#### — 宮島来島者数の推移 —



**世界遺産登録20周年記念事業**

- ・舞楽奉納  
舞楽を4曲奉奏します。  
とき 12月6日(火)  
ところ 厳島神社高舞台
- ・参加費 300円(昇殿料)  
問い合わせ先 (二社) 宮島観光協会 ☎ 2011
- ・厳島神社宝物名品展  
国宝に指定されている宝物などを特別公開します。  
とき 12月18日(日)までの9時～16時30分  
ところ 厳島神社宝物収蔵庫
- ・参加費 一般1000円、高校生500円、小・中学生300円(拝観料)  
展示内容 平家納経願文、宝塔品、紺紙金字法華経など  
問い合わせ先 厳島神社 ☎ 2020
- ・世界遺産ウォーキング  
原爆ドームから宮島へ向かう、約20kmのコースです。  
とき 12月18日(日)9時～16時  
集合場所 旧広島市民球場跡地  
解散場所 宮島  
参加費 高校生以上2000円、小・中学生1500円  
申込方法 事務局まで電話で。  
申込締切 12月5日(月)  
問い合わせ・申込先 事務局 ☎ 082(541)5893



町家通りの「行灯」

- ・宮島スタンプラリー  
「厳島神社エリア」と「弥山エリア」でスタンプを集めてください。6カ所のスタンプで、もみじ饅頭詰め合わせのプレゼントがあります。  
とき 平成29年1月25日(水)まで
- ・ところ 島内(全12カ所)  
参加費 無料  
問い合わせ先 宮島ロープウェイ ☎ 40316
- ・町家通りの「行灯」  
通り沿いの民家と店舗51カ所のあんどんを点灯します。  
とき 平成29年3月31日(金)まで毎日、夕暮れから23時ごろまで
- ・表参道商店街「あかり」  
世界遺産20周年の特製ちょうちんを点灯しています。  
とき 平成29年3月31日(金)まで毎日、夕暮れから23時ごろまで  
※12月10日(土)10時30分から、抽選会と餅の配布をします  
ところ 表参道商店街



#### 神の島の継承者

厳島神社 欄干 福田道憲さん談

一年を通して、違った景色を見せてくれる自然の美が結集した島。島内で暮らしていると同じ景色を見ることはありません。その美しさから、島全体に靈気を感じ、御神体として神聖視されていたため、厳島神社は潮の満ち引きするところに創建されました。瀬戸内海の青と、弥山の緑との境界に建つ厳島神社の朱色の社殿群は、現在の姿に造営された平安時代の様子を今も保ったまま、訪れる人を迎えています。

神の島とその自然、神社を守るのは、神職の私にとつては「当たり前のこと」。神社は幾度となく部分的な火災や台風などの災害を受けてきましたが、そのたびにその当時の人たちによって元の姿に戻されてきました。神職の仕事の一つは、過去から受け継いだものをそのまま次の世代へ伝えていくこと。形あるものだけでなく、神事や伝統行事なども含まれます。先人たちが大切に現在まで紡いできたものを、同じように後世のために

に残していかなければいけません。「皆さんの願いごとを神様に伝え、引き継いだものを後世に託す」という、日々やってきたことがつながった結果が世界遺産への登録だと思っています。世界遺産に登録されたからといって、やるべきことに変わりはありません。これまで同様に「当たり前のこと」を着実に続けていくことが大切だと思っています。

ただ、世界遺産への登録後、これまでよりも確実に宮島や厳島神社の海外での認知度が高くなりました。年々海外からの観光客が増え、思い思いに島での時間を過ごしています。外国人観光客は、大鳥居越しに夕日が沈んでいく様子を眺めるような、時間をかけて自然を満喫する楽しみ方をしているように思います。そうした姿を見ていると、日本人だけでなく世界中の人を魅了するものが宮島にはあるのだと改めて感じました。宮島で神に仕える立場にある者として、守り、受け継いだ島の良さを継承していくことに、より一層、努めていきたいと思っています。